

「勇気を持ってNO!といおう」実践のまとめ

6月に全校児童と全家庭を対象に実施したアンケート（人間関係に関するものと変質者等に関するもの）では、日常生活の中での子供たちの人間関係が浮き彫りになった。この中で、自分の思いを上手に相手に伝えられない子どもの姿、意思の伝達がきちんとできる子に育てたという親の願いが浮き彫りになった。そこで、ライフスキルのひとつである「抵抗スキル」（不健康なまたは危険な行動を助長する誘惑に対して批判的に思考する力・健康や大切にしていることを守るために上手に断る力）を育てる1つの手立てとして、この授業に取り組んだ。

これに先立ち、6月に学校保健委員会で「セルフディフェンストレーニング」の講師を招き、保護者と教師を対象に、学習会を実施した。「自分のからだと心は自分でまもる」ということを、講義と実技を交え対象内容で大人がそれぞれの立場で子供たちに伝えていくための有意義な学習会となった。「自分のからだと心は自分でまもる、ということをお子さんに伝えていく中で、自分は大切な存在であるという自己尊厳の思い（セルフエスティーム）を高めていくことができる」という話は、心とからだの主人公づくりをめざす本校テーマに寄り添った内容であった。会終了後のアンケートでは、回答した教師・保護者全員が、「この内容を授業で取り上げるべき」と答えた。

今回の授業では、学校保健委員会で学んだことをとりいれ、できるだけ子どもたちの生活に近い内容を劇化し、ロールプレイを取り入れて自分の問題として考えていけるよう工夫した。1度に多くのことを取り上げることはできないので、この授業のメインは「自分が持っている3つの権利（安心・自信・自由）を取られそうになった時にNO! と言うことの大切さを理解し、それを実践できる」スキル（抵抗スキル）の育成とした。

授業の企画・検討においては、すこやか会議で話し合い、授業に備えてのレハーサルを行った。

授業の実際

実施日時・場所 7月13日（木） 第2時・第3時限 体育館

内 容

場面 3つの権利「安心」「自信」「自由」の説明……………養護教諭

場面

お母さん先生による寸劇で「3つの権利が奪われそうになる時はどんな場合があるか」を示す。……………お母さん先生（すこやか会議メンバー）

寸劇1：誘拐されそうになる。

寸劇2：遊びの仲間に入れてもらえない。

寸劇3：カード交換を強要される。

寸劇4：友達をたたいてこいと命令される

寸劇5：仕事を押し付けられる。

寸劇1「誘拐されそうになる」は、3年生では、昨年度「さあ、どうしよう＝誘拐編＝」としてロールプレイを取り入れた授業で行っているため、復習をかねた。ここでは、知らない人と話をする時の距離のとり方、危険を感じた時の逃げ方、相手の特徴を覚えるポイントなどを説明した。

寸劇2～5は、身近な生活の中で、3つの権利が取られそうな場面を寸劇で示し、子どもたちに、劇の中の子どもたちがとった行動や気持ちについて意見を聞いた。子どもたちからは、「仲間に入れてもらえなくて、かわいそうだった。」「相手が怖くて断れなかったのだと思う。」「仲間ははずれがいやだからいやだったけど言うことをきた。」「断ると自分がやられると思った。」などの意見が出された。

場面 断ることの大切さと断るときのポイントについての説明……養護教諭
堂々とした態度で断る。
相手の顔や目を見て断る。
何度でもことわる。
危険を感じたら、大声をあげてにげてもいい。
1人で悩まずに、友達に助けを求めたり、大人に相談する。

場面

前時に学習した内容をもとに、実際の場面の中で、ロールプレイをした。無理な要求をする役は、お母さん先生が行った。その場その場で、お母さん先生が内容を変えて、断る役の子どもたちに対応した。このロールプレイの中で、子どもたちは、「断る」という体験をした。
6~7例行った辺りからややゲーム化してきたため、二人一組でのロールプレイに切り替えた。

場面 学習のまとめをする。

何でもことわるのがよいのではなく、自分の3つの権利が奪われそうになったとき、どう断ることを押さえた。学級でも、今日の学習をもう一度深めるよう話した。

授業の反省会での意見(すこやか会議)

- ロールプレイが途中からゲーム化しそうになったので、途中で切り上げて、二人一組での取り組みに切り替えたのは、とりあえず良かったのではないかと。
- 問題提起をしたという形で学級でのフォローを期待した。たぶん、どのがきゅうでも、学級の実態に応じた形で話をしてくださると思う。
- ロールプレイの難しさを感じた。
- 「3つの権利」は低学年の子どもたちには、理解が難しかった。「あんしんして生活する権利がある」ということだけでよいのでは。特に「自信」という権利については説明が難しかった。
- ここでいう「自信」の意味は、自分が自分のままでいい、という意味が強い。やはり低学年では、理解するには漠然としすぎているように思う。
- 休憩を取り、早めに終了したといえ、2時間続きは子どもたちには負担だった。誘拐の部分をカットして、「断る」部分にだけ焦点をあてて1時間(45分)の授業にしたほうがいい。
- 今回、低学年でこうした内容を取り上げたが、こうした内容を低学年の時期に行うのがいいのか、高学年で持ってきたほうがいいのか、という点については？
- この学年でよいのではないかと。高学年でいきなり取り上げるより、問題が身近で、素直に受け入れられる低学年で、基本的なことを教えてあげたい。その上で、高学年で形を変えて取り組むことができればよいと思う。
- たとえば、3年生で取り扱う「電話編」でも基本は、「断る」ということにある。高学年では、薬物の誘惑への拒否の仕方など取り扱う内容は違ってくるが、すべての基本はこれであると思うので。
- 1時間の授業という形にするためには、「さあ、どうしよう=誘拐編=」を、1年生で、今日の内容を2年生で、「さあ、どうしよう?=電話編=」を3年生で実施するというカリキュラムがベターではないか。
- 少しずつだが、新しい独自のカリキュラムが形になるうとしている。2学期の取り組みについては、学年の先生と話しあって予定を立てたい。
- 学期末の忙しい時間に、2時間も早く時間を提供してくださった2年生3年生の先生方にお礼を言いたい。本当にありがたいことだと思う。